「コンパクトシティ」講演会

名古屋市立大人文社会学部「ESD 研究会」主催の表記講演会に参加した。テーマに関心があるだけでなく、講師の海道清信・名城大都市情報学部教授にお会いしたかったからだ。海道さんは私と同年代で、ずいぶん昔にお会いした記憶がある。

大阪市大の宮本憲一研究室で科研費「事務」を担当していた頃だったと思う。海道さんは京大工学部三村浩史研究室の院生だった。三村先生にはお世話になり、今でも感謝している。私が退職してから、海道さんに再会できるとは思っていなかった。若き新任たちが、こうした講演会を企画してくれて嬉しいかぎりだ。

海道さんは 2001 年に学芸出版社から『コンパクトシティ―持続可能な社会の都市像を求めて』を出版し、わが国のコンパクトシティ論の先駆者として著名である。今回の講演会に参加するにあたって、海道さんのご著書や論文を読み返した。名古屋都市センターでの調査報告書『成熟社会における持続可能な居住地形成に関する調査研究』2009 年も借り出した。海道さんは名古屋のまちづくり、とりわけ名古屋のコンパクトシティ政策といえる「駅そば生活圏構想」についても深く関わっている。

今回の講演は、Ⅰコンパクトシティ論、Ⅱなごやのまちづくりを考える、という２部構成であった。テーマは「コンパクトシティ政策と名古屋のまちづくり」であったが、Ⅰのコンパクトシティ論に重点がおかれた。わが国のコンパクトシティ政策の「提唱者」らしく、コンパクトに諸説と見解を説明され勉強になった。この日のために準備をしてきたので、質疑の時間が待ち遠しく、珍しく遠慮せず最初に手を挙げた。

時間の関係で２点にしぼって質問した。まずコンパクトシティ政策と平成の大合併について。わが国でコンパクトシティが注目され、地域政策としても展開され始めた頃、全国各地で合併の嵐が吹き荒れた。都市とはいえない低密拡散型「都市」がつくられてきたが、コンパクトシティ論として合併をどう考えるか。次に、名古屋の「駅そば生活圏構想」から 10 年近くが経過したが、これまでの政策展開をどう評価するか。タワーマンション建設が進み「都心居住」の傾向がみられるが、「駅そば」と都心居住の関係についても質問した。海道さんに詳しく回答してもらい、多くの示唆が得られた。

会場は懐かしい教授会開催の会議室である。正面の席に座り、教授会の議長を務めた 10 年前を思い出しながら、海道さんの講演にじっくりと耳を傾けた。

（2015 年 2 月 12 日）